
慶應義塾大学東アジア研究所・現代中国研究センター 2017年度国際シンポジウム開催のご案内（12/16）

このたび慶應義塾大学東アジア研究所・現代中国研究センターでは、以下の通り国際シンポジウムを開催する運びとなりました。

皆様におかれましては、万障お繰り合わせの上ご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、参加希望の方はお名前、ご所属を明記のうえ cccskieas@info.keio.ac.jp までご連絡ください（受付回答はいたしませんのでご了解ください）。

- ◆テーマ： 非日常的な時代における日常生活
～毛沢東時代への民間史料からのアプローチ～
Ordinary Life in Extraordinary Times
～An Approach toward the Mao Era using Grassroots Materials～

- ◆日時： 2017年12月16日（土）13:00-17:20

- ◆場所： 慶應義塾大学三田キャンパス東館6階 G-Lab

【慶應義塾 Access & Maps】

<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>

→ キャンパスマップ【3】が東館です

- ◆使用言語： 日本語、中国語（二ヶ国語同時通訳）

- ◆プログラム

12:30～13:00 受付

13:00～ 開会挨拶 高橋伸夫（慶應義塾大学東アジア研究所所長）

13:20～ 基調講演

中兼和津次（東京大学名誉教授）

「中国社会のミクロ的研究に向けて」

張楽天（中国・復旦大学社会学部教授・当代社会生活資料センター主任）

「小材料、大歴史：關於社会生活資料研究方法的幾点思考」

13:50～ 第1セッション 毛沢東時代における「草の根」政治

司 会： 島田美和（慶應義塾大学法学部専任講師）

報告1： 巖善平（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授）

「人民公社時代の農民と生産隊：労働利用と分配に関するマイクロデータの解析を通して」

報告2： 汪雪芬（中国・復旦大学当代社会生活資料センター・ポスドク）

「基層政治溝通中的非正式規則運作：對 1950 年代鎮江档案的考察」

コメンテーター： 金野純（学習院女子大学国際コミュニケーション学科准教授）

14:50～ コーヒーブレイク

15:10～ 第2セッション 「生活圏」から社会へ——方法論的視座

司 会： 小嶋華津子（慶應義塾大学法学部准教授）

報告1： 叢暁波（中国・東北師範大学社会学院教授）

「文化与自我：從个体自我看社会文化是否可能？」

報告2： 有末賢（亜細亜大学都市創造学部教授）

「日常と非日常における生活史：社会学からの方法論」

コメンテーター： 田島英一（慶應義塾大学総合政策学部教授）

16:10～ ラウンドテーブル 毛沢東時代の日常と非日常をどのように捉えるのか？

司 会： 鄭浩瀾（慶應義塾大学総合政策学部准教授）

討 論： 張樂天、有末賢、金野純、小嶋華津子、巖善平

17:10～ 閉会挨拶： 田島英一

◆シンポジウムでは、録音・映像による取材はご遠慮いただいております。

◆本シンポジウムはチャタムハウスルールに則り運営されます。

プレスの方々が、講演者等の発言内容を引用される際には直接本人の了解をとってくださいますようお願い申し上げます。

（文責：小嶋 華津子）